

平成30年度第1回運営委員会 議事概要

- ・開催日時 平成30年6月14日（木） 13時30分～15時30分
- ・出席者 運営委員…………… 14名出席（欠席委員：1名）
 ウイズセンター…………… 所長、次長、職員
 男女共同参画青少年課… 総括参事

議事	概要
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1)平成30年度事業の概要について〔質疑等〕</p> <p>委員</p> <p>ウイズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウイズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウイズセンター</p>	<p>ウイズセンター説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進の基本的な予算が少ないように思うが、人件費を差し引いた事業予算がどれくらいあるか、大まかに教えてほしい。 ・事業費予算は、平成30年度は913万4,000円。平成29年度は768万1,000円で、前年比119.4%となっている。「チャレンジ支援事業」の見直しを行ない、「再就職スタートアップコース」「資格チャレンジコース」「短期トライアルコース」「女性活躍キャリアアップコース」の部分で増額となった。その他の事業費については、ほぼ同額である。今年度も工夫して事業に取り組みたい。 ・DV対策の方針について、DV対策は被害者支援に特化している場合が多いが、DVの加害者への対策も重要である。DV加害者の更生プログラムなどに取り組んでいる自治体もあると聞くが、そういった取組を今後行う予定はあるか。 ・岡山県ではDV加害者対策の施策は行えていないのが現状である。DV対策は、県内のDV被害者支援施設、市町村や警察と連携し、DV被害者支援を行うことで少しずつ進んでいると考えている。DV加害者対策の重要性は承知しており、DV加害者更生プログラムなど、今後研究してまいりたい。 ・チャレンジ支援事業について。働く女性トータルアシスト事業には4コースあり、開催場所は岡山や倉敷が多く、県北での開催が少ないように思うがいかがか。 ・働く女性トータルアシスト事業について、昨年度までキャリアアップ講座として行ってきた2つのコースに、新たに2つのコースを付け加えたものである。キャリアアップ講座として行ってきた2つのコースに関して、津山での開催をなくし岡山と倉敷での開催としたのは2つ理由がある。一つは集客の問題。昨年度は津山でも行ったが、定員が15名のところ、2名の応募であった。もう一つは「津山まちなかカレッジ」というト

議事	概要
委員	<p>タルアシスト事業と内容の似た津山市独自の事業が行われていることである。また、新たな2つのコースについては、どちらも業者に事業を委託して実施する予定である。一方は仕様で岡山・倉敷での実施としているが、委託実施する業者で県北でも行うなどの提案があれば検討したい。もう一方のコースは県北においても二箇所で開催する予定である。</p>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズカレッジ事業について。平成29年度の実績では参加者が少ないのではないかと感じる。講座の広報等をどのように行っているか教えてほしい。 ・ウィズセンター会議室を使用する機会が多いが、会議室の定員が50人程度であるため、そのくらいの参加者数になることが多い。広報等は、市町村や関係機関に協力いただき、講座のチラシを窓口に置いていただくなどしている。また、新聞各社にも依頼し、紙面に掲載していただける場合もある。ホームページ等でも適宜、広報を行っている。改善点も探りながら、広報手法をいろいろと考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画ゼミナール事業について。事業の目的に「地域リーダーのネットワークづくりを推進する」とあるが、平成29年度はどういった実績があったか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダーのネットワークづくりについて、平成29年度男女共同参画ゼミナール講座の中で、平成28年度の修了者の方から、その後の活動の様子をお話いただいた。こういったことにより、以前の修了者の方と今回の講座に参加いただいた方のネットワークづくりができるような工夫を行った。また、男女共同参画ゼミナールでは、毎回ワークショップの講座を組み入れ、参加者同士で話し合う機会を提供し、ネットワークづくりにつながっていると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画ゼミナールの参加者は市町村の職員の参加が多いように思う。市町村職員と一般の参加者の割合をおおまかに教えてほしい。また、地域リーダーのネットワークづくりについて、成果は挙がってきているか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村職員と一般の参加者の割合であるが、おおよそ市町村職員が7～8割で一般の参加者は2～3割である。ネットワークづくりについて、工夫はしているが成果はなかなか見えづらいと感じる。課題であると感じているので、ご意見いただきながらこれからも研究してまいりたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業について、大人を対象にしたものが多いように思う。男女共同参画やDV対策は小学校、中学校、高校、大学などの若年層に啓発等を行うことも重要であると考えます。教育関係の機関と連携した事業はあるか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・DV事業の中で、高校生や大学生などを対象にストップ・DV講座を行っている。小学校や中学校に対しては、男女共同参画青少年課でパンフレット等を作成し、活用してもらっている。

議事	概要
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の視点も踏まえた小学生向けDV防止啓発冊子とその手引きを作成した。固定的な性別役割分担意識の解消、自分の気持ちを言葉で伝えることや「嫌なことは嫌だ」と伝える勇気を持つ大切さなどを伝える内容で、小学3・4年生からを対象としている。 青少年健全育成促進アドバイザー事業では、外部講師を派遣している。DV防止や男女共同参画、スマホの問題などの話を、幼稚園児から中学生までの子どもだけでなく、保護者、教員、地域の方も一緒に聞いていただくことを前提とした事業である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画ゼミナール事業について、地域リーダーを養成しそのネットワークづくりができた先に、どういう取り組みを地域でしてほしいのかというイメージがあれば教えていただきたい。また、地域リーダー養成を目的とした事業で講演会などの参加者に、参加動機を尋ねるようなアンケートを行っているか。また平成30年度で重点的に取り組む内容があれば教えてほしい。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画ゼミナールのネットワークづくりのその先のイメージについて、最終的には、ウィズセンターでやっている講演会等の啓発イベントなどを県内の各市町村やより小さい単位の地域で行い、結果として全県が盛り上がる形になればよいと感じている。まだ道のりの途中であるが、ウィズセンターが出前講座などを市町村や各地域などで行い、それぞれの市町村でも地域でもできるんだという形を示していくことが大事なのではないかと感じている。また参加動機について、アンケート等で、詳細な参加動機はアンケートでは聞いていないので、項目に入れることを検討したい。 平成30年度の重点的な取組について、今年度の新規事業である「働く女性トータルアシスト事業」と「DV被害者サポート実務強化事業」を確実に実施していくことが重要であると考えている。また「参加者が少ない」「広報の仕方」などが課題であると感じているため、様々な工夫を行い、効果的な手法を研究していきたいと思っている。また、センターの外での活動も重要であると感じている。出前講座などについて積極的に行っていきたい。また、現在のホームページを整理し、男女共同参画に関する情報をわかりやすく発信していくことにも取り組みたい。またウィズセンターの20周年を機に、短期的・長期的なウィズセンターのあり方や今後取り組んでいくべきことなどの検討していく必要があると感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で企画をしたり活動してもらうためには、講座のやり方をフォーマット化してそれを配ってみるなどの工夫が必要かもしれないと感じた。働く女性トータルアシスト事業について、目標はどのあたりにあるか。講習を受けて、スキルを身に付けて終わりなのか。あるいは就業す

議事	概要
ウィズセンター	<p>るまでなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> この事業は、それぞれの方が自分の思っている姿に結びつけていくことを目標としている。修了者には半年後と1年後にアンケートを行っている。過去のアンケートではかなりの方が自分の思っている姿に結びついているのではないかと感じている。
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、瀬戸内市は5回連続講座の「せとうちゼミナール」を独自に行う。これまでも男女共同参画センターがある市町村ではこうした講座が開催されていたが、拠点となるセンターがない所でも行われるのは、ゼミナール生が育ってきている成果ではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「男女共同参画推進委員」という制度を実施している自治体が他県にはある。こういった制度を実施することで、住民や地域にいろいろとかかわっていきこうとするきっかけになるのではないかと思う。
(2) ウィズセンター の今後のあり方 について	
委員	<ul style="list-style-type: none"> 講座内容によってチラシの送付先等、広報の仕方について工夫が必要だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ウィズセンターの活動を全部把握し切れていないというのが現状である。ウィズセンターの活動を一般の方々に広く知ってもらうためには、広報等の工夫がまだまだ必要だと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「県・市町村職員のレベルアップのための講座」を高い自己評価としていたが、まだ市町村ごとに差があると感じている。ウィズセンターの事業としてだけでなく、県男女共同参画青少年課で取り組むものではないかを感じる。また、登録団体の取り組みについて、何に重点を置いてウィズセンターが取り組んでいくべきか検討していったほうがよいと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ウィズセンターの課題は現在所属している団体と課題等が似ていると感じる。これからも、こういった会議の場を借りながら、一緒に勉強していきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「男女共同参画推進委員」の制度について、この制度を実施している自治体では、過去の委員を集めた総会のようなことをやったり、推進委員が主催する講演会なども行っているようである。今後の取り組みの参考にしていってほしい。ウィズセンターの館内は図書が目立っており、団体の活動している姿が見つけにくいと感じる。団体の活動している姿を見つけやすいようにすることで、館内に訪れた人にもウィズセンターは団体活動の拠点にすることができることが伝わり、ウィズセンターの活性化にもつながるのではないかと感じた。

議事	概要
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、所属している団体は男女共同参画という点に関して取組があまり進んでいないと感じている。ウィズセンターの事業を参考にしながら、男女共同参画に関する取組を進めるきっかけとしていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの団体がそれぞれの役割を果たし、また連携していくことで、男女共同参画社会は実現に向かうのではないかと感じている。20周年を迎えるにあたり、男女共同参画社会の実現のために「なくてはならないウィズセンター」になっていければよいと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳の対応など、様々な立場の方が利用できるウィズセンターであってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の意識付けは繰り返し行って行くことが重要であると考えているため、ウィズセンターで行っている事業等は長く続けていってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・DV防止法に基づく配偶者暴力相談支援センターは県内に「女性相談所」「ウィズセンター」「さんかく岡山」「ウィズアップくらしき」の4カ所しかないが、そのうちの2カ所「女性相談所」と「ウィズセンター」が同じ建物内にあるのは問題があるのではないかと感じている。それぞれで連携を取り合っているとは思いますが、県民にとっては離れた場所にあったほうが利便性は良いのではないかと感じる。また、相談事業を行っているが、相談員の数や配偶者暴力相談支援センターとしてのセキュリティ面も十分ではないと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男女という2つの性だけではなく、多様性を尊重する社会になってきていると思う。そのような中で事業の取り組み方も変わってくるのではないかと感じる。また男女共同参画社会の実現に向けての課題を明確にするための、調査事業のような取組があってもよいと思う。県民参加の入り口を広げていき、ウィズセンターのファンを作っていく取組を今後行ってほしいと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座など、センター外での事業を行う際は、できるだけ民間企業等で行ってほしいと思う。民間企業にも男女共同参画の考え方を広げていくことで、男女共同参画社会の実現に近づくことができるのではないかと感じる。また、DV対策の加害者更生プログラムについて、海外の先進国では義務付けられているところもあると聞く。この取組が実現できれば、DV対策もまた一歩前進するのではないかと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、ウィズセンターで行っている取組について、あまり幅を広げないで、今行っていることを、問題点を解決しながら充実していくことがよいと思う。また、関係各所からの問題発言などで男女共同参画が脅かされる事態になった際は、アクションを起こすことができるウィズセンターになってほしいと感じる。

議事	概要
委員 3 閉会	<p>・ウィズセンターが現在行っている取組は、基本的には変えず、他の機関などと事業内容が重複しないよう、事業を行ってほしいと感じる。また、ウィズセンターのPRがまだ足りていないと感じるため、広報等にさらなる工夫をし、広く県民にウィズセンターのことを知ってもらう努力をしてほしい。また、現在のウィズセンターの場所の近くには、後楽館高校やベネッセなどがあり、こういった、地域の企業や施設と連携した事業を行うことも重要ではないかを感じる。県内の男女共同参画センターとのさらなる連携も重要である。また、県民の方がもっと利用しやすいように、セキュリティ面を確保しつつ、館内のレイアウトの変更などを行ってもよいかもしれない。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

※ウィズセンター運営委員会の概要はこちら → <http://www.pref.okayama.jp/page/462788.html>